

正月の新聞各紙を眺めていたら、一月三日付「読売新聞」に「『勝負年』ニュー

大波小波

宮沢氏はいかにも官僚出身らしく、「各省庁の局長クラス」と答えているのだが、竹下、安倍両氏の場合

には、中曽根首相の取り巻きのような政治評論家の名前が出ていて、あまり変わりばえがしない。

だが、驚くべきことは、安倍氏のところで佐藤誠三

ああニューリーダー

問う項目があった。

一・学習院大教授とともに自他ともにはゆるす中曽根ブ

レインであり、一時は、「永田町に烏が啼かない日はあっても、香山・佐藤・公文の学者トンビが飛ばない日はない」などと彼らの跳梁(ちようりよう)を好ま

ない官僚たちが囁(ささや)きあっていたものだ。

これら三人に共通するのは、いずれも口八丁手八丁の才人でありながらこれといった専門業績がないこと、

怒っている議員も多いというけれど、ニューリーダーの器がいよいよ問われるときであるだけに、学者の登用にも慎重を期すべきであるぞよ。(旧リーダー)

これまでにも新自由クラブから大平政権そして中曽根政権へと次々に座敷を移してきたように、その変身と売り込みがまことに鮮やかなことだ。

安倍派の内部には、こともあろうに中曽根ブレインを近づけるとは何事かと怒っている議員も多いというけれど、ニューリーダーの器がいよいよ問われるときであるだけに、学者の登用にも慎重を期すべきであるぞよ。(旧リーダー)

怒っている議員も多いというけれど、ニューリーダーの器がいよいよ問われるときであるだけに、学者の登用にも慎重を期すべきであるぞよ。(旧リーダー)